

<小学生・中学生・高校生の意見発表>

いろいろ学べたワクワクフェスティバル

形原北小学校 6年 大橋 茉穂

茉穂さんは、いつも元気いっぱい笑顔いっぱい、たくさんの友達に囲まれて楽しく学校生活を送っています。前期児童会副会長として、あいさつ運動や募金活動に力を入れ、笑顔あふれる学校づくりを目指してきました。

「小学生でもやれるボランティア活動があるみたいだよ。」

このお母さんの一言が私の心に響きました。私は小さい頃からみんなのために働きたいという思いをずっともっていました。ですからこの活動はととてもよい機会になると思い、すぐさま「やりたい。」という一言ができました。

今年の5月17日、子どものためのお祭りワクワクフェスティバルに参加し、ワクワクカンパニーのキッズスタッフとして、私はうどん作りとアナウンサーに挑戦しました。

うどん作りでは、ガマゴリうどんをお客様に販売しました。このうどん作りを通して学んだことが三つあります。

一つ目は商売には、あいさつ、笑顔がとても大事だということです。

「いらっしゃいませ。」

「ガマゴリうどんはいかがですか。」

「お買い上げありがとうございます。」

と大きな声で、笑顔で言ってみたら、買ってくださるお客様が増えたからです。相手の表情や態度によって人の気持ちは変わるものだと思います。

二つ目は体中を清潔にしていけないということです。私がそのことを感じたのはうどん作りを始める前のことでした。一

度手を消毒したのに手袋をはめてその上からまた消毒をしていました。そしてかわくとまたすぐに消毒をするのです。これだけきちんとやっているなんてびっくりしました。商売をしている人たちはこんなにもお客様の安全に気づかってくれているのだなと思いました。三つ目はおいしそうに思ってもらえるように見た目よく具材をのせなくてはならないということです。一つの料理に対してもいろいろ工夫をしないといいものへとつながっていかないと思いました。

いっしょに売っていたおじさんが「子どもといっしょだと売れるねえ」と言ってくれ、うれしくなりますががんばりました。最後に自分たちで作ったうどんをみんなで食べました。



PRアナウンサーの仕事もしました。ベテランのプロの方に原稿の読み方を教えていただいてからアナウンスしました。例えば、語尾を強調しないとか、人に一番伝えたい言葉を言う前は一つ間をあけてということなどたくさん教えていただきました。高校生のお兄さんやお姉さんたちも「前を向いて大きな声で言いんよ。」と教えてくれました。今で

も学校で司会をやるときは、この教えていただいたことを活用しています。たくさんの人たちとふれあうことができた楽しいボランティア活動でした。

今回はみんなのために働きたいという思いを達成することができ、本当にうれしく思っています。このように市民の方といっしょ

にイベントを開いてこの町を楽しく明るくしたいと思いました。これからもボランティア活動をして市民の方の役に立てたらいいかなと思います。私たちの町、蒲郡市を他の市に負けないくらい明るい社会にしていきたいです。

浜野さんとのシールはり

中央小学校 6年 石原歩果

歩果さんは、誰に対しても優しく接することができ、朗らかな性格で、前期には1年生のお世話をする協力委員を務めました。先日行われた市民陸上大会の走り高跳びでは、1m 25cm を記録し、第1位を勝ち取ることができました。後期も下級生のお手本になろうとがんばっています。

私はいつも、浜野さんという近所の見守り隊のおばさんと一緒に、交通安全の旅に出かけます。

「歩果ちゃん、今回もシールはりお願いできるかな。」

朝、学校に来る途中、交通立ち番をしている浜野さんから声をかけられます。このお誘いから、交通安全のため、事故を少しでも減らすためのシールはりの旅が始まります。道路にはあってある、黄色い「とまれ」のシールです。

まず、浜野さんが市役所でもらってきたシールを数え、はる場所を考えます。まだきれいにはられているものはそのままに、古くなって色がはげたり、めくれたりしているものは新しいものとはり代えます。古くなったシールは、人がたくさん通る道によくあります。みんながこのシールを見て通ってくれていると思うと、

「しっかりはらなくては。」

と、気持ちが引きしまります。

はる場所が決まったら、ほうきではいて石などを取り除きます。すき間にはまった石は、手を使ってとります。すごく痛いです。けれど、このシールがないととても危険な場所です。大きな道路にさしかかる道なので、安全を確認せずに飛び出したら、大きな事故につながります。がまんして石を取り除いたら、いよいよシールをはります。しかし、一人ではうまくできません。しわができたり、曲がってしまったりしてしまいます。二人でないと、できない作業なのです。私がお手伝いを始めるまでは、浜野さんは一人でこの作業をやっていたそうです。とても大変だったと思います。

この作業を、浜野さんと協力して、何度も何度も繰り返します。



全てのシールをはったら、最終確認をしながらごみ拾いをして帰ります。

この仕事が終わると、いつも浜野さんがたくさんほめてくれて、お礼まで言ってくれます。けれど私は、浜野さんにこそお礼を言いたいです。毎日、雨の日も風の日も、私たちの登下校を見守ってくださっています。

「おはようございます。気をつけて、いってらっしゃい。」

浜野さんの元気な声と笑顔で、今日も一日がんばろうという気持ちになれます。私たちの安全を見守るだけでなく、元気をくれる浜野

さんに、私はとても感謝しています。

もちろんシールはりは手が痛くなるし、大変な作業です。けれど、

「私がこの町を守っている。中央小のみんなが、安全に暮らせる道を整えている。」

と思うと、力がわきます。浜野さんのために、中央小のみんなのために、私の住んでいる町のためにできるこの作業が、私は大好きです。これからも、交通安全の旅を続けていきたいと思います。

「あたたかい」と人

蒲郡中学校 3年 本 多 世 南

世南さんは明るく優しい性格で仲間からの信頼が厚いです。前期は広報委員長として委員会の中心となって活躍しました。後期は生徒会役員としてよりよい学校になるよう努力しています。

私は「あたたかい」が好きです。かぶるとゆったりとした気持ちになれる布団や、体をぽかぽかさせてくれる料理。ほかにも多くの「あたたかい」があります。きっと、ぬくもりが嫌いな人はいないと思います。だから、私は、「あたたかさ」は社会・町をつくる必要なものの一つだと思います。

「殺人事件」「自殺」。私は、この言葉をニュースや新聞でよく見ます。人や命は重くて重くて仕方がなくて、でも当たり前のように存在するものだとは私は思っています。自分が生きていれば、人がいて命があるので、存在することは当たり前です。でも、決して簡単に扱ってはだめなものです。「自殺」や「殺人」などを考える人の気持ちはよくわかりま

せんが、人や命がそういうものだからこそ、「最後はそれしかない」と思ってしまうのだと思います。けれど、それは言葉にできないほどに悲しくつらいことです。

このような考えや出来事を減らすことが、明るい社会・安心な町を作るために必要なことだと思います。減らすためには「あたたかさ」で支え合って、助け合うことが必要だと思います。ふんわりとゆったり過ごしたり、うれしくて体がぽかぽかするようなことが増えたりすると、楽しいです。増やすためには、私は、「言葉」が大切だと思います。気持ちなどは、



その本人にしか分からないので、他人が読み解いていくことは難しいです。ですが、それを「言葉」で伝えられたら、人間関係がより良くなったり、話し合いがより解決の方向へ向かったりすると思います。「言葉」は少し言い方が違ったり、悪く使ったりしてしまうと、誤解を招いたり、どんどん悪い方へ広がって行ってしまったりする強力な力を持っています。しかしそれは、「言葉」のもつ「ぬくもり」「あたたかさ」も強力であるということです。短い言葉でも、傷つけてしまうことだってあれば、力づけることもあります。二年生のときのことです。私が、生徒会役員選挙に立候補したものの、自信をなくして落ち込んでしまっていたとき、夕ご飯を食べながら、祖母がこう言ってくれました。

「世南はその温かさが良いんだよ。ゆったり

とした雰囲気がみんなを和ませるんだよ。だから世南はとてもよいものを持っているよ。」

その言葉で、とても安心して勇気づけられ、今でも強く心に残っています。言葉はそよそよとしています、すばらしいものです。言葉のあたたかな部分を、人と伝え合えば、明るい社会や町を作ることができると思います。

「あたたかい」ものは、人をつくっていると思います。人と人で伝え合うことができれば、困っている人や助けてほしい人に手を差し伸べられます。だから私は、この魅力あふれるすてきな町蒲郡を、「あたたかさ」「ぬくもり」でいっぱいにして、明るい社会、安心の町と、人と、生きていきたいと思っています。

私と家族

中部中学校 3年 杉浦 はる花

はる花さんは、優しく気遣いができ、自分のことよりも仲間のことを大切にするので、多くの仲間からの信頼を得ています。部活動では、弓道部の部長として仲間に安心感を与え、精神的な支えとなり、部を県大会3位に導きました。

私は今年で家族と出会って15年目になります。中学3年生というと、受験だったり、大会が最後であったりして比較的ピリピリして、何かにあたるという子が多数いると思います。私もその中のひとりです。帰ると疲れもたまっていて、親に何か言われたり聞かれたりすると、ついついきつい言い方で返してしまいます。言った後にいつも後悔しています。でもまだ、直せずにいます。自分でも情けなく思えてくるし、どうして直さなきゃいけないのにできないんだろう、もっと普通

に笑顔で会話できないんだろう。毎日そう思います。そんなとき、家庭科の授業で、「自分の生まれたときのことを調べよう」という宿題が出ました。自分では、そのときの様子が分からないので親に聞き

ました。「生まれたときどうだった？」

私が聞くと、お母さんもお父さんもうれしそうに話してくれました。



「2000年5月20日、身長50cm、体重2894g。
元気に生まれてきてくれたよ。でも、ぜん
そく持ちだったからいつも入院していて
大変だったし、心配だったんだよ。でも、
今は元気に過ごしてくれてうれしいな。」

この言葉を聞いたとき、私の心はものすごく
温かくなりました。うれしくて、うれしくて
涙が出そうになりました。その後もはいはい
をした日、おむつが取れた日、初めて話した
言葉……。その他にもたくさんのことを教え
てくれました。全然記憶にはないけど、その
ときの様子が少しわかる気がしてもっとう
れしくなりました。お母さんたちと話してい
る中で、一番印象に残っているのは、私の名
前の由来についてです。「春の花のように、
誰にでも優しく愛される子に育ててほし
い。」という願いが込められており、お父さ
んが命名してくれました。私は、家族に対
してあまり優しくしてあげたり、素直になれ
ていないところが多いと思います。私のため
に考えてくれたこの名前に恥のないように、友
達はもちろん、大好きな家族にも優しくなれ
るようにしたいです。そしてもっともっとか

かわりを増していき、家族一人一人のいいと
ころをたくさん見つけたいです。

家庭科の宿題のおかげで、私はすごい家族
に愛されているんだなと実感することがで
きました。何かを言うのは私のため。私自身
に成長してほしいため。それを文句を言われ
てるとか、悪い方向で考えてすぐに逆ギレを
するのではなく、しっかり理解してもっとい
い子になれるようにしたいです。今はまだ、
親孝行なんてできる年ではないかもしれませ
んが、私が大きくなって仕事に就いたら家
族みんなを楽に過ごさせてあげたいです。そ
のためには今は、目の前の受験に立ち向かいま
す。

家族とのかかわりを通すことで、友達には
相談できない悩みとかを相談できたり、家族
から新しい知識を手にすることができると
思います。これからも家族との時間を大切に
したいです。自分の世界の視野を広げるため
大人への一歩として、明るい社会を作るため
にも今できることを全力で頑張っていきたい
です。

世代を超えた交流のススメ

三谷中学校 3年 増山真凜

真凜さんの元気なあいさつと笑い声は、学級を明るい雰囲気にはしています。また、体育大会の応援合戦でリーダーを務めたり、修学旅行実行委員を務めたりと活躍しました。明日の文化祭でも、全校の前で、すてきな歌声を披露してくれる、三谷中の人気者です。

私は毎週日曜日の朝早くから、太極拳をし
ています。その仲間たちは全員70歳以上の
お年寄りです。なぜ、私が早朝、太極拳に参
加することになったかという、私の祖母の
ある一言がきっかけでした。祖母は週に一度

市民センターで太極拳を教えています。それ
だけではなく、日曜日の朝、希望者を集めて
近くの公園で太極拳をするようになりまし
た。

ある日の食事中、私は祖母に、「ばあちゃ

んは太極拳をずっと長いこと続けていて偉いね。」と言いました。すると、祖母は私に、

「一緒にやってみる？」

と誘ってくれました。せっかく誘ってくれたので、私は

「行く。」

と返事をしましたが、お年寄りばかりの中に中学生の私が行って、迷惑にならないだろうかと不安もありました。あまり気が向かないまま日曜日が来て、私は祖母と公園に行くことになりました。

公園に着くと、もう何人ものお年寄りの方がいて、みんな生き生きとした表情で太極拳を行っていました。祖母が、

「今日から孫が参加することになったからね。」

と私を紹介すると、一斉にこちらを向いて嬉しそうな表情をしてくれました。その瞬間、来て良かったなと思いました。一人の方が、

「一気に平均年齢が若くなったねえ。」

と冗談を言ったので、その場が笑いに包まれ、私は自分が歓迎されているということを感じました。こんなにも喜んでくれるとは思ってもみませんでした。その日から毎週日曜日の早朝太極拳に私は 11 番目のメンバーとして参加することになったのです。

それから、私はほとんど休まず参加をしています。一緒に太極拳をしているお年寄りの方と仲良くなってきて、私の名前を覚えてく

れるようになりました。私が行くたびにお菓子をくれる方もいます。今では日曜日が楽しみになりました。太極拳も少しずつ上手にできるようになりました。また、学校の行き帰りに、顔見知りになったお年寄りの方とあいさつができるようになり、地域に知り合いが増えたように感じられました。

私の通う三谷中学校

では、1 年生のときに、地区の老人会の方と交流をはかる行事があります。私も 1 年生のと



きに地域のお年寄りの方と一緒にカルタやトランプをしました。そんな活動が、蒲郡全体でもっと広がっていけばいいと思います。例えば、あまり人のいない日曜日の早朝の公園を利用して、お年寄りの方との交流の機会が作れたらすばらしいと思います。私が行っているのは太極拳ですが、それは何でもかまいません。そうすれば、私のように、世代を超えた知り合いが増え、毎日の生活も楽しくなると思います。

半年間続けてきた太極拳。私はこれからもずっと続けていきたいと思います。そして、お年寄りの方からたくさんのことを教えてもらいたいと思います。私も、私の元気をお年寄りの方たちに届けたいと思います。おじいちゃんおばあちゃん、これからもよろしくお願いします。

中国人の周さんと出会って

西浦中学校 3年 小笠原康暉

康暉くんは、勉強熱心で、難しい問題にも意欲的に取り組むことができます。分からなくて困っている友達に丁寧に教えてあげる優しさもあります。現在は、11月に行われる合唱コンクールの指揮者として学級を引っ張ってくれています。

皆さんは、中国の方に対してどんなイメージをもっていますか。僕は以前、空港で横入りしているところを見かけたことがあり、「自分勝手」「マナーが悪い」など、あまりよいイメージをもっていませんでした。しかし、中国の方誰もがそうでもないということが分かる出来事がありました。

僕が中学1年生のときのことです。僕の姉が国際科の高校に通っており、中国から留学生として来ていた周さんという18歳の女子高校生のホストファミリーを約2か月間、引き受けることになりました。その頃の日中関係はあまりよくなかったので、周さんからどんな日本の悪口を言われるかと心配になりました。

「お邪魔します。お世話になります。」

初めて家に来たとき、とても礼儀正しいあいさつをしてくれた周さんの様子を見て、僕の中国の方に対するイメージが変わりました。

それから毎日、夕食の時間に周さんと話しました。どうやら彼女は、別のところで1年間ホームステイをする予定だったのに、半年で移動することになったようです。中国人だからという理由だけで、次の学校で寮生活を送っていたそうです。彼女は自分の何がいけないのだろうと必死に考え、日本語の敬語を真剣に学習し、努力をしました。その中でホームシックになったこともあったそうです。僕はなんて理不尽な話だろうと思いました。

周さんと国内旅行に行ったとき、

「日本が好き。」

と言っていました。そして、彼女は、

「中国人が全員日本が嫌いなのではない。」

とも言っていました。周さんのように日本語に興味を持ち、日本が好きで日本に来る人だっていることに気づきました。

周さんと出会って、2か月間一緒に過ごし、僕の中国の方に対するイメージは大きく変わりました。日本人から見るとマナー違反に思えることも、その国の文化の影響も大きいような気がします。今振り返ると、偏見を持っていた自分に対して、どうしてもっと分かろうとしなかったのかと思います。

世界には様々な文化があり、生活習慣も異なります。自分と違う習慣の人を簡単に否定せず受け止める気持ちを持つことも大切だと思います。それが彼らを理解する第一歩となり、世界とつながることになります。

また、このことは外国人に限ったことではありません。日本人同士でも、勝手なイメージにとらわれて、本当の姿を理解しようとしていないことがあると思います。僕が実際に周さんと過ごしてみてイメージが変わったように、実際に面と向かって話をすれば、その人を理解することができます。みんなが自分と違う面がある人を受け止める心を持てるといいと思います。



相手をよく見て、決めつけないで

形原中学校 3年 高木 清楓

清楓さんは、誰にでも優しく笑顔が素敵です。責任感も強く吹奏楽部をリードしてきました。また、昨年度の市英語スピーチコンテストで優勝するなど、海外生活で養った国際感覚を生かして活躍しています。

「中国って本当はどんな国なんだろう」
「中国人って本当はどんな人たちなんだろう」

連日放送されるニュースや新聞での報道を読んで、誰もがもつ疑問のように思います。良い印象悪い印象様々だと思えます。私は中国での生活を通して、印象ががらりと変わると言う経験をしました。

私は小学生のときに、父親の仕事の関係で中国に住むことになりました。何も知らなかった私は、期待と不安で胸がいっぱいでした。中国へ行くことが怖いと言った方がよいのかもしれない。

ある日、中国の街を歩いていたときのことです。中国の人たちが大声で言い争っているような声が聞こえてきました。怖いなと思いました。しかし一緒にいた父親に話している内容を聞いてみると、

「昨日の晩ごはん、すごいおいしかったよ。」
「何を食べたの？」

という日常会話だったのです。私はこのときの経験から、どんなことに対しても、実際に何が起こっているのかよく考え、よく知らないのに勝手に決めつけるのは良くないと思いました。

これも中国での経験です。私は買い物で歩き疲れてくたくたになりながらバスへと乗り込みました。しかしそのバスは満員で席が空いていませんでした。私は小さな手で手すりをしっかりと握りながら踏ん張っていま

した。するとそんな私を見て近くに座っていた人が、

「どうぞ座ってください。」

と、手をさしのべて席を譲ってくれました。その瞬間、私は心がポツと温かくなったことを今でも覚えています。言葉も通じない日本人の私に席を譲ってくれたのです。私だったら、言葉が通じないことを理由に譲るのをやめてしまったことでしょうか。だからこの人の言動には、優しさと真心が詰まっていたと思います。人の優しさには国境はありません。一部の報道による悪い印象だけを信じ、自分で考えたり調べたりせずに信じ込んでしまうのは危険であると思いました。

私は中国で実際に生活をして、そして今その経験を振り返ってみて、ニュースだけでは伝わってこない中国の人たちの温かい一面を知ることができました。きっとそれは、ずっと日本で生活をしていたら、なかなか気づくことができなかったはずですが。私はよく知らないのに怖いと勝手に決めつけていた自分を恥ずかしく思います。中国についてよい印象をもっているみなさんも、よくない印象をもっているみなさんも、まずは「相手をよく見て決めつけないで」ほしいと思います。そして、このことは身の回りの友達関係にも言えるこ



とだと思っています。これからも、私自身勝手なイメージだけで決めつけず、相手をよく

見て理解することを心がけていきたいと思っています。

夢の舞台へ

塩津中学校 3年 岩瀬 莉帆

莉帆さんは、誠実で責任感があります。春の市内大会では、剣道部主将として、優勝に導きました。また2年生のときにはオーストラリア派遣に参加、さらに生徒会副会長として、学校内外で大活躍しています。

「TOKYO」

2020年。あと5年後の未来にスポーツ選手ならば誰もがうらやむ夢の舞台が東京で開かれることが決まりました。発表を聞いて

「僕も私もオリンピックに出たい。」そんな夢を持った中学生もいると思います。

しかし、私は今の日本のままでは最高のおもてなしができないと思います。

2011年3月11日。日本中がざわめいたあの日から東北はどうなったのでしょうか。震災直後はテレビのニュース、コマーシャルなどいろいろなところで募金や支援、ボランティアの呼びかけなどが行われていました。しかし、東北の今を知っている人はとても少ないと思います。テレビで報道される機会が少なくなり、同じ日本にいても現状がよく分からない、募金活動も少なくなっています。放射能の影響でまだ故郷へ帰れない人もいます。蒲郡にも遠い東北から避難してきた人がいます。つらくて苦しいはずなのに明るく笑顔で振る舞う先輩が私の中学校にいました。逆に、私たちが勇気や希望をもらった気がしました。「下を向いていたって始まらない。」と言われていた気がしました。だからこそ、私たちはあの日のことを忘れてはいけないと

思います。

東京オリンピックの知らせはきっと東北の方たちの明るい未来の象徴となったはずです。そんな未来を切り開くためには5年という短い期間で東北を元通りにし、日本全体をレベルアップさせなければいけません。開催地である東京だけでなく、日本中が発展したら、世界中の人々がたくさん集まり、最高のおもてなしができると思います。

協力すること、思いやりを持つこと、助けることは学校生活ではもちろん社会に出たときでも大切な三つだと思います。当たり前のことを大切に。いつも先生が、「A B C D」と言っています。A、当たり前のことを B、バカにすることなく C、ちゃんと D、できる子。そんな人が多い日本はきっとすばらしく、輝いているのだらうと思います。一番大切なことを忘れてはいけません。

5年後、日本の未来を担うのはきっと私たちだと思います。私たちが大人になったとき東北が元通り、それ以上

になっているように。世界中の人々に最高のおもてなしができるように。



夢の舞台は日に日に近づいてきています。そう遠くない未来に希望があります。夢があります。最高のおもてなしがあります。私も一人の日本人として日本を誇れる活

動ができるようになりたいです。

「夢はきっと叶うもの」

心が1つに想いが1つになればきっと実現すると私は信じています。

トイレ掃除

大塚中学校 3年 大岡千鶴

千鶴さんは学級での仕事に責任をもって取り組むことができます。また、周りの様子を見て、友達のために率先して行動することもできます。卓球部の部長として、自分が見本となって努力することの大切さを部員に示したり、思いやりのある声かけをしたりしていました。後期も文化祭などの行事の中心となって、それらの成功に向けてがんばっています。

私は去年、初めて本格的なトイレ掃除をした。きっかけは、先生がボランティア活動の呼び掛けをしているときに、友達に誘われたからである。本当はあまりやりたくなかったが、友達がやるなら、私もやろうと思い、実際にトイレ掃除をやってみた。想像以上に大変であったが、トイレ掃除はとても大切なことだと分かった。

ボランティア活動をしているとき、

「トイレ掃除は、トイレを自分の心だと思って磨きなさい。そうすれば、磨いた分だけ心がきれいになる。」

と、先生がおっしゃった。私はこの言葉を聞いたとき、トイレ掃除をマメにできる人は、心がきれいだという意味だと思った。また、人が嫌がるトイレ掃除を、進んでできる人は、我慢強い人だと思う。先生は、トイレ掃除をすることで、私たちに我慢強い人になってほしいと願っているのではないかと思った。

最近、不登校の人やひきこもりの増加が問題になっている。学校のトイレ掃除は、本格的にやると、かなり大変だし、勇気がいる。

その分、終わった後は達成感いっぱい、清々しい気分になれる。がんばって良かったと心から思える。中学校を卒業した後、叱られて落ち込んだり、つらくて心が折れそうになったときに、あんなに汚いトイレを我慢して掃除できた自分なら、今度もがんばれる！と、前向きな気持ちでいられると思う。先生は、私たちにたくましくなってもらって、トイレ掃除を勧めてくれたのだと思った。

次に私は、普段トイレ掃除をしてくれている人に感謝するようになった。東京ディズニーランドに行ったとき、トイレの美しさに驚いた。あんなに多くの人たちが利用するトイレを、清潔に保てるなんて、スタッフの人たちの努力は大変なものであろう。以前の私なら気付かなかったが、今はトイレを掃除してくれている人たちの存在に気付けるようになった。

中には、感謝の気持ちや我慢強い心なんて、必要ないと思う人



もいるかもしれない。けれども、感謝の気持ちを持てることで、自分が一人で生きているのではない、いろいろな人に支えられて生きている、と気づくことができる。今まで何となく生活できていたけれど、よくよく考えれば、両親はもちろんのこと、毎日の給食を作ってくれている給食センターの人たちや、私たちの安全を見守ってくれている緑のおばさん等、そういった人たちのおかげで私達は、

日々の生活を送ることができている。

私はトイレ掃除をして、大きく成長することができた。できるだけ多くの人にトイレ掃除をやってほしい。トイレ掃除を好きな人はあまりいない。しかし、きれいなトイレは、健康の源である。さらに、トイレの美しさは心の美しさである。「心」を磨くためにも、トイレ掃除を試してみませんか。

見えない相手への思いやり

蒲郡東高等学校 2年 壁谷 将 貴

壁谷くんは温厚篤実な性格で、クラスメイトからの信頼の厚い人物です。文化祭では映画作品の企画・製作を中心となっていり、毎年賞を受賞しています。写真部の部長としても活躍する、マルチな才能の持ち主です。

相手の気持ちを考えるということは、人とのコミュニケーションにおいて最も大切なことです。相手がどう思うか、どう感じるかを考え、自分の言動に責任を持つべきです。

私は家族の転勤に伴って、3回の転校を経験しました。転校するたび新たな人間関係を築く必要があったため、思いやりを持つことの大切さを実感したのです。だからこそ、現在のコミュニケーションに対して意見を述べたいと考えました。

ここ数年で、意思疎通の形は大きく変化しました。インターネットが広く普及し、人とのつながりを促進するサービスや、不特定多数の人と交流のできる掲示板が登場し、これらを介したコミュニケーションが日常生活の中で用いられるようになりました。こうしたコミュニケーションには、「相手と対面して交流することができない」という大きな特

徴があります。そのために、相手と直接向き合うときは異なる問題が生じています。少し掲示板を見ただけでも、数多くの誹謗中傷の書き込みを認めることができます。高校生もよく用いるSNSでは、「裏ライン」などのいじめの温床になりかねないグループを作成することもあると聞きます。面と向かって発することはない乱暴な言葉も、書き込みではすんなりと使用できてしまうのです。もし、実際に自分を仲間はずれにするためのグループを作られていたら。もし、どこかの掲示板に悪口が書き込まれていたら。少し考えれば、誰でも

嫌な気持ちになることは容易に想像できます。しかし、書き込みとい



った行為に及ぶ人が多数いるのが現状です。

この問題には、「想像力の欠如」が関係していると考えています。スマートフォンの画面越しには、感情を持った、自分と同じように生活をしている人間がいる。ひどい言葉を聞けば傷つく、普通の人間がいる。そんな当たり前前のことが、電波を通しただけで想像できなくなってしまう人が増えています。ネット上では、自分と相手の姿が見えません。しかし、姿の見えない相手であっても、血の通った自分と同じ人間とのやりとりであるため、思いやりの気持ちを持つことは当然のことです。自らの言動に責任を持つためには、

相手を想像し、相手の立場に立って物事を考えることが不可欠だと思います。

これから私たちが生きていく未来は、より一層情報化の進んだ社会であることは明白です。もちろんこの情報化社会には、便利で快適な面も多くあります。上手に使えば、よりよい意思伝達の方法として活用できるはずで。重要なことは、どんな新しい形であっても、それを行っているのは生きた人間であることを忘れず、思いやりや譲り合いといった当たり前前の気持ちを持って相手と接することです。

ひとりじゃない ～つながりを大切に～

蒲郡高等学校 3年 山本実沙希

山本さんは、明るく、元気で、常にまわりの人が喜ぶことを考えるのが大好きです。趣味は多彩で、特技もいっぱい持っています。知的な好奇心が旺盛で、何事にもチャレンジする姿勢を持っています。

あなたには自分のことを見てくれている人がいますか？

私にはいます。その存在に気付かせてくれたある体験を話します。

学校をもっと楽しい場所にしたい、行事を盛り上げたい、そのようなことをなんとなく考え、私は生徒会長に立候補しました。それまで人前に立つことは好きでしたが、自分から何かに挑戦するのは初めてで「こんな私でも大丈夫だろうか。」という不安でいっぱいでした。でも先生や友達がたくさん応援してくれたので、演説や当選してからの学校生活を思うと楽しみにになりました。

そして、元気いっぱいの演説をして会場を

沸かせました。注目されることが大好きな私はこれでみんなに自分の存在を知ってもらって人気者になれると思いました。学校のスターになった気分でした。

でもあっさり落選しました。

応援してくれた人たちに申し訳ない気持ちとこんなに簡単に終わってしまうものなのかととても悔しくて涙が止まりませんでした。どうしようもないこの気持ちから救ってくれたのは、応援してくれた先生方や友達の優しさでした。

「よかったよ。お疲れ様」と言われてまた涙がこぼれそうになりました。

このとき、結果はダメだったけれどやって

みてよかったと思えました。なぜなら選挙で当選することよりも大切なものに気づいたからです。それは「誰かが見てくれている」ということでした。落ちたとき、本当にこれで終わりだと思っていました。でもこの優しい言葉があったからこそ今の私がいます。もしも誰も声をかけてくれないか馬鹿にされていたならば、私は自信をなくし今ここに立って話をする事も出来なかったでしょう。

誰にでも、自分を見てくれている人は必ずいます。いないと思っている人はその存在に気づいていないだけです。あなたの頑張っている姿やいいところは必ず誰かが見てくれています。その存在に気づき、大切にしてください。

こんな偉そうなことを言っている自分ですが、周りの人の頑張っているところに気付いているだろうかと思い返してみたとき、私はできていないような気がしました。

もしかしたら私と同じような人がたくさんいるかもしれませんね。まずは自分から働きかけなければいけないのです。それは難しいことではありません。

私がしてもらったように友達の頑張っているところ、良いところに気付いてあげる。一人にしない。例えば掃除を頑張っているあの人、クラスの先頭に立ってみんなをまとめているあの人、いつでも笑顔のあの人。あなたの周りにも頑張っている人はたくさんい

ます。小学校で言われた「してもらって嬉しいことをしてあげよう」というのによく似ています。「おはよう！」と言ったら「おはよう！」と返ってくるのと同じで、困っている人や悩んでいる人がいたら助けてあげる。そしたらきっと自分にもその優しさが返ってきます。でも見返りは求めず、素直な心を持って人に優しくすることが重要です。人に優しくできたらその分自分を好きになることができ、人の良いところもたくさん見つけれられるようになります。

人の頑張っているところやいいところをたくさんの方が見てあげられるようになったら



世界中優しい人であふれ、今より明るい社会になっていくと考えます。絶対そのほうが生きてて楽しいと思うので私はたくさんの人に広めていきます。しかしながら、私の力だけでは世界中に発信することはできません。

美しい心を持つ蒲郡市のみなさんとともに日本中、そして世界中に発信していきましょう。まずは人の頑張っている姿やいいところを見つけるなどの小さなことからでもいいのです。普段の生活から見方を変えて生活してみましよう。そこから見えてくるものはきっとたくさんあります。

あいさつの大切さ

三谷水産高等学校 3年 山下 健太

山下くんは、明るく元気でいつもにこにこしています。誠実な人柄で、級友や部活の仲間からも慕われています。所属する増殖部ではリーダーシップを発揮し、メダカやマダイなどの飼育生物の管理に、毎日一生懸命取り組んでいます。

「人に会ったら、あいさつをしましょう」ということは、小学生でも知っている常識です。しかし、成長していくにつれて日々の忙しさに忙殺されてしまい、あいさつがおろそかになってしまうことも少なくありません。あいさつがおろそかになってもさしあたって大きな損害はありません。だからついついしなくなってしまうのです。でも、実はあいさつを行うことには多くのメリットが含まれています。

そもそもあいさつは、鎌倉時代の禅宗が広めたと言われていました。「おはよう」から「おやすみ」まで日本人は多くのあいさつを使います。あいさつには人間関係の潤滑油としての働きがあります。あいさつをしてもらえなかったり、あいさつをしたのに返事がなかったとき、ムッとしたことはありませんか。さらに自分にはあいさつをしない人が、上司や目上の人に対してあいさつをしていると余計腹立たしく感じてしまいます。これはあいさつをしてくれないという表面上のことではなく対等に扱われていないなど、あいさつをしないことで相手を認めていないという見方をされ人間関係に大きな影響を与えかねません。お互いに気まずいときなどには積極的に行くべきなのです。自分に気まずさがあるときは、相手にも気まずさがあります。そんな時のコミュニケーションの代表があいさつです。小さな言葉でも今後大きな効果を与えるでしょう。

他にもあいさつは常識のある人の判断材

料です。子どものうちはできても大人の方がちゃんとあいさつできていないのが現実です。あいさつができる、ということはとても簡単なことです。しかし、そんな簡単なことの一つで常識のある人を分ける重要な材料なのです。あいさつに技術はいりません。大きな声で笑顔で「おはようございます」と言うだけです。たったそれだけで、あなたは「あの人はしっかりあいさつしてくれて、常識のある人」という評価を頂くことができます。自分の評価を上げるために高いお金を支払い難しい資格を取ったり、マナー講座を受けることよりも、とてもお得なのです。

このようにあいさつには多くのメリットがあり、簡単に始めることができます。そう思い立った今すぐに始められます。一日のうちあいさつをする機会は何回もあります。お金も掛からず、リスクもなく長期的に見れば、得るものはたくさんあります。現代の社会では、新年のあいさつや用事はほとんどメールやSNSに頼っています。あいさつをしないよりはるかにましです。しかし、あいさつの原点は人と人が直接会って話すことに意味があると考えます。多少の面倒さがあっても「あいさつ」ということに少し時間を割いてみて下さい。自分の人間としての幅を広げて視野を広げる大きなチャンスになるでしょう。

